

平成18年人口動態統計（確定数） 石川県分の概況

「平成18年人口動態統計（確定数）の概況」[厚生労働省大臣官房統計情報部集計・9月7日公表（厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei06/index.html>）]による石川県関係分は、前年に比べ出生数、婚姻件数、離婚件数は増加し、死亡数、死産数は減少した。

【出生】

- ・ 出生数は、平成元年から平成13年までは、毎年1万1千人台で推移していたが、平成14年から1万1千人を切っている。
平成18年の出生数は10,235人で、平成17年の10,049人より186人増加した。
- ・ 平成18年の出生率(人口千対)は8.8で、平成17年の8.6より0.2増加した。
なお、全国平均は8.7で、本県はそれよりも高い。
- ・ 合計特殊出生率は、昭和40年代後半の第2次ベビーブームの後には、低下傾向にあるが、平成18年の合計特殊出生率は1.36で、平成17年の1.35を上回った。
なお、全国平均は1.32で、本県はそれよりも高い。

【死亡】

- ・ 死亡数は、平成9年から平成14年までは、毎年9千人台で推移していたが、平成15、17、18年と1万人を超えた。平成18年の死亡数は10,294人で、平成17年の10,376人より82人減少した。
- ・ 平成18年の死亡率(人口千対)は8.9で、平成17年と同率であった。
なお、全国平均は8.6で、本県はそれよりも高い。
- ・ 死亡原因の順位は、第1位 悪性新生物 3,159人(人口10万対271.6)、第2位 心疾患 1,684人(人口10万対144.8)、第3位 脳血管疾患 1,206人(人口10万対103.7)であった。
- ・ また、平成18年の乳児死亡数は25人で、平成17年の30人より5人減少し、平成18年の乳児死亡率(出生千対)は2.4で、平成17年の3.0を下回った。
なお、乳児死亡率の全国平均は2.6で、本県はそれよりも低い。

(自然増加)

- ・ 出生と死亡の差である自然増加数は 59 人で、平成 17 年の 327 人より 268 人増えた。
また、自然増加率(人口千対)は 0.1 で、平成 17 年の 0.3 を上回った。
なお、自然増加率の全国平均は 0.1 で、本県はそれを下回った。

[死産]

- ・ 死産数は、平成 15 年以降、4 年連続減少しているところであるが、平成 18 年の死産数は 245 胎で、平成 17 年の 259 胎より 14 胎減少した。
平成 18 年の死産率(出生 + 死産 千対)は 23.4 で、平成 17 年の 25.1 を下回った。
なお、死産率の全国平均は 27.5 で、本県はそれよりも低い。

[婚姻]

- ・ 婚姻件数は、平成 11 年以降、毎年 6 千組台で推移しているところであるが、平成 18 年の婚姻件数は 6,267 組で、平成 17 年の 6,052 組より 215 組増加し、平成 18 年の婚姻率(人口千対)は 5.4 で、平成 17 年の 5.2 を上回った。
なお、婚姻率の全国平均は 5.8 で、本県はそれよりも低い。

[離婚]

- ・ 離婚件数は、平成 10 年以降、毎年 2 千組前後で推移しているところであるが、平成 18 年の離婚件数は 2,007 組で、平成 17 年の 1,907 組より 100 組増加し、平成 18 年の離婚率(人口千対)は 1.73 で、平成 17 年の 1.63 を上回った。
なお、離婚率の全国平均は 2.04 で、本県はそれよりも低い。

人口動態総覧（石川県分）

	実 数		率		平均発生間隔	
	平成 18年	平成 17年	平成 18年	平成 17年	平成 18年	平成 17年
出 生	10,235	10,049	8.8	8.6	時 分 秒 51: 21	時 分 秒 52: 18
合計特殊出生率	-	-	1.36	1.35
死 亡	10,294	10,376	8.9	8.9	51: 04	50: 39
乳 児 死 亡	25	30	2.4	3.0	350: 24: 00	292: 00: 00
新 生 児 死 亡	11	14	1.1	1.4	796: 21: 49	625: 42: 51
自 然 増 加	59	327	0.1	0.3
死 産	245	259	23.4	25.1	35: 45: 18	33: 49: 21
自 然 死 産	144	137	13.7	13.3	60: 50: 00	63: 56: 30
人 工 死 産	101	122	9.6	11.8	86: 43: 58	71: 48: 12
周産期死亡	52	52	5.1	5.2	168: 27: 42	168: 27: 42
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	44	40	4.3	4.0	199: 05: 27	219: 00: 00
早 期 新 生 児 死 亡	8	12	0.8	1.2	1095: 00: 00	730: 00: 00
婚 姻	6,267	6,052	5.4	5.2	1: 23: 52	1: 26: 51
離 婚	2,007	1,907	1.73	1.63	4: 21: 53	4: 35: 37

(注) 1 平成18年、平成17年は確定数である。

2 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対であり、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

主な用語の定義

自然増加：出生数から死亡数を減じたもの

合計特殊出生率：15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供数に相当する。

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの